

第3回長崎県がん診療連携拠点病院研修会 (アンケート調査結果)

開催日 平成22年2月12日(金曜日)
 時間 18:45～
 場所 ベストウェスタンプレミアホテル「トパーズ」
 出席者 46名 回答者 19名
 出席者の内訳

職名	施設名	大学病院	長崎市民 病院	長崎医療 センター	島原病院	佐世保市 立病院	原爆病院	他施設
	総数							
医師	34名	6名	3名	2名	0名	0名	0名	23名
薬剤師	3名	3名	0名	0名	0名	0名	0名	0名
看護師	5名	3名	0名	2名	0名	0名	0名	0名
放射線技師	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名
MSW	2名	2名	0名	0名	0名	0名	0名	0名
栄養士	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名
心理士	2名	2名	0名	0名	0名	0名	0名	0名
事務職員	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名

～今回の講演の内容について～

① よかったところ

- ・大西先生の講演(医師)
- ・遺族外来の話が聞けた点。「第2の患者」としての家族という視点を教えてもらった事。(医師)
- ・両先生とも、やさしく丁寧にお話ししてくださり、最後までしっかり理解できました。お話をひきこまれました。(医師)
- ・日頃、病棟にて患者さんに服薬指導をしていて、薬剤師は患者さんのお話をきくだけでは、「仕事」として成り立たなくて辛いところなのですが、大西先生、蓬莱先生のように患者さんのお話を聞いて、「専門知識」を持って「心のケア」ができる、精神科医ってほんとにいいなあと初めて(すみません)思いました。(薬剤師)
- ・臨床場面に例した具体例の呈示。(医師)
- ・緩和ケアにおける、抑うつ剤、抗精神薬の使用は、認知症の場合にも通じ、興味深かった。患者だけでなく、家族⇒遺族のケアまで頑張っておられる。内科にも遺族が来て(受診)話をするのがあり、心構えについて参考になった。(医師)
- ・ふだんの診療経験よりお話しいただいたわかりやすいお話でした。(医師)
- ・臨床のエピソードを基に日常診察のtipsもわかりやすく教えていただけました。(心理士)
- ・実例に基づいた話で良かった。(医師)

- ・特別な視点から具体的な話をきけ、診療に役立つ精神科医としてのかかわりには限界がある。(医師)
- ・実践にともなう具体的事例を通した内容で、解りやすく参考になりました。(看護師)
- ・実例での説明だったのでわかりやすかったです。(看護師)
- ・臨床にぞくした講演で非常によかったです。(医師)
- ・精神症状に対する見立てのたて方を改めて再確認することができました。本人のみならず、家族のケアの大切さを改めて考えさせられました。(臨床心理士)
- ・わかりやすかったです。(医師)
- ・医師の気持ちの共有ができた有意義な話でした。(医師)
- ・わかりやすい事例を聞いた。(医師)
- ・精神的ケアの必要性を理解できた。(医師)

② 気になったところ

- ・一般病院の緩和ケアでは心のケアが未熟であること。(医師)
- ・緩和ケアの必要性。参加者がわかった。折角の機会だったのに、宣伝不足だったかな？(医師)
- ・この分野に精進するには精神科医としての専門性を捨てねばならない。(医師)
- ・うつ病の症状で一般的にメジャーな症状でない場合、器質的な疾患がなくても、なかなかNsからDrへは、うつ病について相談できません。緩和に携わるDrだけでなく、多くのDrが「うつ病」について理解を深めていただけるとよいなと思います。もちろん、Nsも学ばないとDrを話し合うこともできないと思いました。(看護師)
- ・もう少し具体的な薬剤の使い分けなどを知りたかった。(医師)

③ 講演に対する要望

- ・また、視聴したいです。(医師)

次回の講演で希望すること

- ・宗教の関与について(医師)
- ・NsやCPが患者さんに対してどう関わるか、その関わり方に関する講演。家族や兄弟(子供達)に対するケアの方法(臨床心理士)
- ・地域連携(医師)

がん診療センターに対する要望

特になし